

研究課題名	消化器内視鏡における感染防御策の評価
研究の意義・目的	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により感染防御の強化が求められるようになりました。消化器内視鏡検査でも今までより、嚴重な感染防御対策で検査を行っております。本研究では、あたらしい基準の強化された感染防御策が、受診者、患者の皆様に不具合を与えていないかを診療録や情報をさかのぼって検討し、評価することを目的としています。本研究により、より安全に安心して内視鏡検査をうけていただける環境を作ることを目的としています。
研究を行う期間	倫理審査委員会承認後～2022年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2016年7月1日～2021年3月31日の期間に大阪市立大学医学部附属病院および先端予防医療部附属クリニック MedCity21 において消化器内視鏡検査を受診した受診者が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 1 上部消化管内視鏡時の観察記録および、その際の状況についての診療録、看護記録（患者酸素飽和度、血圧、検査時間診情報等） 2 患者基本情報：年齢、性別、現病名、問診調査（現病歴、既往歴、家族歴、内服歴、喫煙歴、運動習慣、食事習慣、睡眠習慣等） 3 血液検査結果：健診・人間ドック一般血液検査結果（血算、肝機能、腎機能、糖代謝、脂質代謝、電解質、尿酸、腫瘍マーカー、ホルモン検査、アディポカイン、炎症マーカー、尿検査所見等） 4 生理学的検査：身長、体重、BMI、体組成、心電図、呼吸機能検査、認知機能等 5 画像検査結果：腹部エコー検査、腹部 CT（内臓・皮下脂肪面積）、胸部 CT 検査、上部消化管内視鏡および造影検査、マンモグラフィー、乳腺エコー検査、頭部 MRI/MRA 検査等 6 機能検査結果：動脈硬化検査（超音波法による頸動脈内膜中膜複合体肥厚（IMT）、脈波伝播速度（PWV）、内皮依存性血管拡張反応（FMD））、骨代謝関連検査（DEXA 法による腰椎・大腿骨骨密度）、Fibroscan 装置による定量的肝内脂肪蓄積度（CAP 値）等
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院先端予防医療学、消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院先端予防医療学、消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 先端予防医療学 研究責任者 灘谷 祐二
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 先端予防医療学 （担当者氏名）灘谷 祐二 MedCity21 人間ドック・健診エリア（電話番号：06-6624-4010） メールアドレス：dada@med.osaka-cu.ac.jp